

特殊切手「切手趣味週間」

【切手帳デザイン】

〈表紙〉



〈中面〉

【切手趣味週間について】
切手趣味週間は、郵便切手が持つ「楽しさ」や「芸術性」といった文化的価値を一般の方々に広く認識していただくとともに、切手収集の趣味の普及を図るため、1947（昭和22）年に当時の逓信省が設定した「切手趣味の週間」をその始まりとしています。
現在は、郵便記念日である4月20日を含む1週間を切手趣味週間としており、切手趣味週間の切手の発行日を切手趣味週間の初日としています（2025（令和7）年は、4月18日から24日まで）。

【舞妓林泉（まきぎりんせん）】（東京国立近代美術館蔵）（Photo: MOMAT/DNParcom）
1924（大正13）年に制作された、土田麦徳（むぎのり）の代表作です。日本庭園の静寂を印象的な感覚で觀者に向けて描きながら、舞妓の姿も日本の静寂で厳然と描き調和させることで、日本画の静寂美を見事に結実させました。

Design and other details of postage stamps to be issued
For this year's stamp designs, two works were selected from the collection of modern "bitings (portraits of beautiful women)" used in past Philately Weeks.

【天下「舞妓間」】
編者岡田正に寄贈された解題的「美」と「芸術性」等文化价值、同時代編者の活躍、創刊1947（昭和22）年当時の逓信省官印「郵便記念週」
如今、包含郵便記念日4月20日を含む1週間を「切手趣味週間」として発行し、切手趣味週間の初日（2025（令和7）年は4月18日）に発行する。

【発行する郵便切手のデザイン等】
今回の切手デザインは、過去の切手趣味週間に採用した近代美術家から2点を選びました。

【発行関係機関等】
本切手デザインは「郵票共進之用」系の中で、郵票共進用切手として発行される。

【序の舞（まきのま）】（東京国立近代美術館蔵）（Photo: MOMAT/DNParcom）
1924（昭和13）年に制作された上村松園（まつのり）の代表作であり、重要な文化財に指定されています。序の舞とは、舞の中で最も静かで上品な舞です。この作品では、若い女性が舞う姿を、静寂の中にも厳然とした女性の気品が表現されるよう描かれています。

【舞妓林泉（まきぎりんせん）】（東京国立近代美術館蔵）（Photo: MOMAT/DNParcom）
土田麦徳の代表作。創作1924（大正13）年。作品中庭園の静寂を印象的な感覚で觀者に向けて描き、舞妓の姿も日本の静寂で厳然と描き調和させることで、日本画の静寂美を見事に結実させました。

【切手趣味週間】
PHILATELTY WEEK, 2025